

1)防災減災に関する検討事項

昨今の災害を踏まえたこれまでの議論

昨今の災害を踏まえた今後の検討の方向性(案)

令和2年9月4日
第13回 技術小委員会資料

気象状況、道路の被災状況等
<p><気象> 観測史上最大の10日間降水量を観測 (令和2年7月豪雨)</p> <p>1時間降水量50mm以上の発生回数が 約1.4倍に増加 (令和2年7月豪雨、令和元年東日本台風)</p>
<p><被災> 河川を渡河する橋梁で 上部工の流出や橋脚の洗掘が発生 (R219等球磨川渡河橋梁群、R20法雲寺橋)</p>
<p><被災> 河川に隣接する区間で 道路の流出が発生 (R41岐阜県下呂市、R210大分県日田市、 R144群馬県妻恋村等)</p>
<p><被災> 道路区域外や防災点検対象外で 大規模土砂災害が発生 (R3熊本県芦北町、R418長野県天龍村、 R20神奈川県相模原市等)</p>

今後の検討の方向性		[参考]防災・減災プロジェクトとの関連
①	<p>昨今の雨の降り方の変化に伴う <u>道路の事前通行規制基準のあり方を検討</u> (土工分野会議)</p> <p>※事前通行規制要領の改定 (現在、事前通行規制基準として連続雨量を活用)</p>	58. 国民生活・社会経済へのダメージを最小化する道路オペレーション
②	<p>昨今の変化する外力を踏まえた <u>点検すべき新たな災害リスクについて審議</u> (土工・橋梁分野会議)</p> <p>〔<u>点検により要対策箇所をとりまとめ</u>〕</p> <p>※必要に応じ技術基準類の見直しを検討</p>	55. 河川・鉄道・道路分野が連携した橋脚等の防災・減災対策
③	<p>②及び技術の進展も踏まえた <u>災害リスク箇所のマネジメント^(注)のあり方を検討</u> (土工・橋梁分野会議)</p> <p>(注)災害リスク箇所の把握や評価、対策の立案の手法等</p> <p>※道路防災点検要領の改定</p>	1-1. インフラ分野における防災・減災のための新技術の活用 55. 河川・鉄道・道路分野が連携した橋脚等の防災・減災対策

防災減災に関する検討事項(案)

令和3年10月25日
第15回 技術小委員会資料
(一部追記)

昨今の被災事例



報告事項

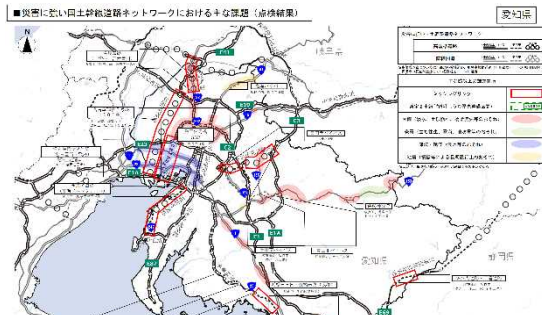
点検すべき新たな災害リスク箇所（橋梁・土工分野会議で審議）

- 橋梁洗掘・道路流失
 - ・河積阻害
 - ・基礎の根入れ不足
 - ・直接基礎
- 橋梁流失
 - ・旧型支承
 - ・桁下余裕不足
- 大規模土砂災害
 - ・LP調査結果

- 開通後まもない道路土工構造物
 - ・緑化法面工（植生）箇所における崩落

災害に強い国土幹線道路ネットワークを選定し点検を実施（防災上の課題箇所の把握）

中長期目標：発災後、概ね1日以内に緊急車両の交通を確保
発災後、概ね1週間以内に一般車両の交通を確保



<防災・減災、国土強靱化に向けた道路ネットワークの点検結果（R2.11）>

今後の進め方(審議事項)

新たな知見を踏まえた道路防災点検・道路土工構造物点検要領の改定

<新たに策定>

三次元点群データを活用した道路斜面災害リスク箇所の抽出要領(案)

R3.10策定

<改定に向けた検討>

道路防災点検要領、道路土工構造物点検要領

- ・点検調査の改善（役割分担）
- ・近年の被災事例から得られた新たな知見
- ・1巡目の点検結果から得られた知見 等

今回審議

<策定に向けた検討>

○道路リスクアセスメント要領

- ・災害に強い国土幹線道路ネットワークについて、耐災害性のリスク評価を行い、効率的・効果的にネットワークを強化

今回審議

「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に反映